

第111回 北海道整形外科外傷研究会

平成17年 2月26日 札幌市教育文化会館
出席者 108名

主題：交通外傷

会長 我汝会えにわ病院 整形外科 佐藤 栄 修

第111回北海道整形外科外傷研究会を開催して

まずは、第111回の本研究会に多くの一般演題をご応募下さり、活発に討論して下さった会員諸氏ならびに座長の大西信樹先生（我汝会えにわ病院）と佐久間隆先生（市立札幌病院）に深謝いたしたいと存じます。わたくしが第111回の開催を指名された時、日頃整形外科医が遭遇する機会の多い交通外傷に関する諸問題を深く掘り下げて、病態の整理と臨床現場での対応、各種書類の記入方法とその法的意義なども含めて明確にしたいと意気込みました。しかし、会長としての根回しの不足が原因と思われるが主題に関する応募演題が少なく、また一般演題のご応募を数多く戴いたこともあり、時間的制約から十分な討議ができず、必ずしも目標が達成できなかつたのではないかと、近来ではまれにみるほど大勢出席された会員諸氏にお詫びを申し上げます。しかしながら、主題の一般口演では森利光先生（札幌徳州会病院）が実例をあげながら、交通外傷被害者の背景をわかりやすく述べて下さいましたし、会長が依頼した指定発言では百町国彦先生（百町整形外科）が、後遺症の問題を含めて詳しく解説して下さいました。そして本学会顧問の山下敏彦先生（札幌医大）からは、頸部外傷後の病態、とくに症状が遺残する場合の低髄圧症候群に関する研究の一端を披露していただきました。この三篇の論文から学ぶところは大変大きいと思われます。今回の提起を糸口にさらに交通外傷をめぐる具体的な事案につき、近い時期に再び討論されることを深く願って会長としての挨拶とさせて戴きたいと存じます。